

退職者

NO.150

こだま会報



発行日：2025年11月15日／季刊第150号

編集・発行：神奈川県職労連退職者こだま会

〒231-8588 横浜市中区日本大通1県庁地下1階

発行人：加瀬文隆

☎045 (212) 3179 (代) Fax 045 (212) 3178 (代)

Eメール kodama@kodamakai.sakura.ne.jp

URL http://kodamakai.sakura.tv/

歴史散策

小田原北条氏ゆかりの玉縄城址を訪ねる



緑の中の玉縄城址



ジオラマを見る



7月14日、台風5号が接近している中、玉縄城址散策が行われました。大船駅に10時、参加者の18名が集合し、説明役の一杉さんの掛け声でスタート。バスで清泉女学院まで行くと、生憎の雨がポツポツと降り出しました。

玉縄城址
清泉女学院自体が玉縄城なので、正門脇の階段の横に「玉縄城址」の石碑がありました。一杉さんの説明では、学校の校舎の場所が本丸で、これから上る所が「諏訪壇」、城の鎮守として諏訪神社が祀られてあつ

戦国時代の城の凄さを実感

須藤義久

た城の最高部（海拔約80m）とこのことです。

戦国時代、北条早雲の時代の関東の城は、石垣ではなく、ほとんどが土塁・空堀だったそうで、諏訪壇からの展望では、手前はほとんどが崖で、その下が現在の住宅地、そしてその向こうがまた尾根となっており、戦国時代に攻めるのは容易ではなかったと想像がつかます。

諏訪・御霊神社
次は、清泉女学院をあとに、「諏訪・御霊神社」へ。諏訪神社は、城の廃城後に御霊神社と合祀し、現在の地で玉縄城主3代の墓があつたそうです。

龍宝寺、玉縄歴史館
その後雨の中、近くにある玉縄北条氏の菩提寺である「龍宝寺」に移り、玉縄北条氏の供養塔を参拝し、「玉縄歴史館」

若干の雨には降られましたが、戦国時代の石垣のいい、堀切・切岸・土塁ばかりの城のすごさを実感できた大変良い散策でした。わかりやすく説明していただいた一杉さん、事務局の方々、ありがとうございました。

七曲り坂、ふわん坂、久成寺雨が少し小降りになり、城の難所「七曲り坂」を上り太鼓櫓へ、その後、本丸大手門址（現在、清泉女学院の裏門）を通り、御殿坂を下りました。「ふわん坂」は、先の見えない曲がった切通しで、攻め上る兵士たちがどこから矢が飛んでくるか「不安」で「ふわん坂」と命名されたとも、という説明を受けました。坂を下り、徳川家康ゆかりの「久成寺」を見学し、バスで大船駅に戻り、解散しました。



玉縄北条氏の菩提寺「龍宝寺」

こだま会報「150号」になりました！

特集P2～P3

こだま 会報

150号になりました!



●50号は、2000年10月1日発行です。1ページには会員の田辺典雄さんから寄せられた「夜明けの陰影—アオサギ」と題した写真作品が掲載されています。

●現在の「退職者こだま会」と名称を変更したのは、1988年5月の第4回総会でのこと。「退職者こだま会報」となったのは第10号、1988年7月1日発行からです。



●創刊号は1985年6月1日に「県職労退職者厚生会報」という名のもとに出されています。ちょうど40年が経過したことになります。創刊号は、「仲間と共に退職後も安心できる生活をめざして」を見出しに掲げ、スタートしました。

「退職者こだま会報」は、今号で150号となります。これまでの歩みを創刊号、10号、50号、100号の区切りごとに見てみましょう。

年金問題などについての重要な情報を会員のもとへ届けることはもちろんのこと、歴史散歩、テクの会、こだま俳壇など会員が参加するイベントについてのレポートが、徐々に掲載されるようになって、内容は幅広いものになっていきました。

「せいかつ短信」として会員の

●100号は、2013年5月15日発行です。1ページは会員の河合幹彦さんから寄せられた水彩スケッチの作品「神奈川県庁舎」で飾られています。



●100号には4ページにわたって「こだま会報100号特集」が組まれています。執筆は編集を担当していた木村武子さん。100号特集に至る「こだま会報」の足取りが簡潔にかつ詳しくまとめられています。

声を拾うように、会員同士がつながっていくことを大事にして「こだま会報」を生き活きたものにしていきたいと考えています。

★現在の編集委員紹介★

大塚敏高／岩柳良雄／松尾佐知子／瀧澤正行／中嶋ひとみ／角田英昭／倉田直亮／渡辺恵理子（敬称略）



みなさんが楽しみにされていたり、お馴染みになっている記事があると思います。
それをお届けする書き手の苦労や楽しさなどを書いてもらいました。
また長年編集に関わり、大変さや面白さを体験されてきた方にも、一筆お願いしました。



企画のテーマは平和と歴史 「てく・テクの会」

こだま会企画「てく・テクの会」は、2013年に発足、春と秋の2回のワンデイ企画と年1度のバスツアー（9月末に実施）を基本に幹事会の文化レク担当メンバーで企画を練っています。

記憶に残るのは、2011年に起きた東日本大震災の爪痕と福島第1原発事故の痕跡を訪ねた2014年5月14日～15日の「福島復興応援バスツアー」です。現地の皆さんの話を聞き、津波の脅威と原発の功罪を心に刻みました。



いまでも残る漁船。手前に慰霊の卒塔婆（浪江町）

バスツアーは毎年、平和や歴史を基本にテーマを据え、みんなであれこれ知恵を絞っています。

ワンデイ企画も、春は花見、秋は紅葉、そしてお酒やグルメを楽しむひと工夫も加え、交流の場をつくっています。

こだま会はサークルです。その輪には誰でもすぐに入ることができます。お待ちしています。
(小島八重子)



せいかつ短信は、2000年の第49号から掲載されはじめました。定期総会の出欠席用返信はがきやメール、FAXに寄せられた、こだま会への要望や近況（ボランティアのこと、闘病生活のこと、他の会での活動のこと、日頃感じていることなど）のお便りを公開して、会員同士の交流の場となっています。初回100人程度の短信が寄せられました。ここ数年は160～180人くらいの返信が寄せられています。これからも会員を結びつける要として続けて載せていきたいと考えています。
(中嶋ひとみ)

会員を結びつける要「せいかつ短信」

皆さんの一言が励みの 「クロスワードパズル」作り



クロスワードパズルは2017年8月、117号から始まりました。

答え5文字を先に考える。答えに関連することでも少し加えながら、言葉をマスに埋めて、完成間近、単語がつかず失敗が続く。

マスが埋まったら、タテとヨコのカギを工夫する。

みなさんからは、「頭の体操になる」「答えの5文字に関心を持った」など、感想が寄せられる。

パズルを作って一番の励みは、答えに一言二言を追記して、こだま会あてに送ってくれることです。
(岩柳良雄)

こだま会報が150号を迎える

ほぼ30年前県立女性会館長の大先輩である鈴木さんや上野さんにすすめられて会員になり、やがて会報発行にかかわるようになった。
もとより経験は全く傍観しているだけだったが、編集委員が一人、一人と高齢のため退会されていくので何となく手伝うことに。とはいえ鳥海さんや木村さんの原案に賛同しているくらいだった。
聞くとところによれば、

数ある退職者会の中でもこれだけの会報を発行している会は数少なく、ある時には全国大会で配るとか聞いたことがある。企画も変遷があったが、定期総会の出欠の返事に書かれた一言を全部載せることにしたのが結構評判が良かったようだ。思いがけず古い知り合いの消息を知ることができたりするのはうれしいものなのかも知れない。
(新井通子)



「こだま句会」～晩学ノススメ

退職後の時間を如何に過ごすか思いあぐねた結果、「こだま句会」に入会した。会にはかつて同じ職場だった先輩や、顔見知りの人も何人かいらして心強い思いだった。しかし、全くの素人が挑むには俳句は険峻な山塊だった。そんな私たちに、太田土男先生からは実に丁寧なご指導を頂いた。
先生の発言を克明にメモ、語録を作成した。「焦点を決める」、「対象の写生、デッサンが基本」、「気持ちは季語に語らせる」

入会して五七五の17年が経過した。この間には沢山の会員の方が逝去された。しかし新人の入会は続き、月1回の句会は連綿と続いている。
先生の警咳に接することは、会員一同実に嬉しいことだと思っている。
(田中一男)



てく・テクの会 「山梨方面バスツアー」

甲斐の国紀行

小川 晃司



念願の博物館で、 圧倒された

酷暑続きの今年の夏も彼岸に入り朝夕が過ごしやすくなった9月25日、今日は晴天、絶好の旅行日和である。海老名駅に20名が集合し、9時出発。猿橋には45分の遅れで到着した。

○ 日本三奇橋「猿橋」

江戸時代、「錦帯橋」、「木曾の棧」又は「かずら橋」

とともに日本三奇橋と呼ばれ、寛文7年(1667年)甲斐の国徳川藩の猿橋架替普請(工事)に周防の国岩国藩作事組、児玉九郎右衛門が藩命で見分し錦帯橋の構造を参考に行っている。

橋長30・9m、高さ30m、誰が見ても水平と垂直が同じ長さには見えない。この

狭くて深い溪谷に高度の技術をもって橋を架けた先人の知恵に感服。

○ 日本遺産「昇仙峡」

奇岩の溪谷美で有名な昇仙峡だが、紅葉にはまだ早いため観光客は少ない。迫力のある「仙娥滝」は水飛沫を浴び涼しい。「石門」の巨大な花崗岩は握りこぶし一つ空いているのが不思議である。見上げれば「覚円峰」の雄大さに圧倒。

峡谷をゆつくり散策。足元には、ミズヒキソウ、ヤマハギ、コバギボウシ、タマアジサイ等々が咲き、ヤマウルシが1本いち早く紅葉し、秋の気配を実感した。

「戦争遺跡ロタコ」「甲府城址」「躑躅ヶ崎館」等も見学した。

○ 山梨平和ミュージアム「石橋湛山記念館」

続いて26日は、甲府空襲の記録(1階)、石橋湛山の生涯と思想(2階)を1時間の見学。浅川保理事長の熱のこもった解説は、戦争体験者が少なくなった今こそと平和の尊さを強く訴えていた。

○ 釈迦堂遺跡博物館 (笛吹市・甲州市 組合立) (中央自動車道・釈迦堂PA徒歩10分)

2018年8月に東京国立博物館



奇橋猿橋

において「縄文」展を鑑賞した。その中に釈迦堂遺跡は小さな板状土偶七片だけだった。一度は行ってみたいと思い、今回の企画に参加して驚く。

なんと重要文化財5,599点を収蔵・展示している立派な博物館である。火焰型土器や現代美術に引き取らぬ水煙文土器、深鉢型土器、そして、1,000点を超える土偶の多様な形態に圧倒された。



釈迦堂遺跡を午後3時半に出発して海老名駅に5時に無事到着。

安全運転の玉川交通・菅谷ドライバーに感謝とともに、見どころの多い今回のバス旅行を企画していただいた、こだま会役員のみなさまに厚くお礼申し上げます。



昇仙峡「仙娥滝」

新連載

歴史散策一口話(第1回)

歴史散策ガイド 一杉雄二



私と「歴史教室」とのお付き合いは、2020年3月、小田原北条氏をテーマとする「講座」の講師を引き受けたことに始まります。コロナ禍の中で歴史教室の活動が「散策」に特化された後は、そのガイド役を続けています。

散策ガイドのために資料漁りをする度、新しい学説に接したり、長年の疑問に対する答えを見つめるなど、様々な「歴史発見」があります。これから、その一端を「こだま会報」の紙面をお借りして皆さんにお届けします。

横浜中華街

○整然とした区画街

路によって整備された関内の地図を見ると、中華街のブロックだけが左



に傾き、道路は全て四方位(東西南北)に合致しています。これは「風水の思想や方位学を生み出した中国人がつくり上げた街だから」という訳ではありません。

○太平の世となった江戸時代、人口の増加に伴って新田開発が行われるようになります。

○横浜では吉田新田の完成後、宝永4(1707)年の噴火による富士山からの降灰が流れ込んで水深が浅くなった帷子川河口域の海面埋め立てを中心に、新田開発が急拡大します。岡野、平沼、伊勢佐木、関内といった横浜市の現在の中心市街地の殆どは、こうした埋立地の上に築かれたものです。

○寛政8(1796)年(異説あり)、中村川を挟んで吉田新田に接する

場所で、横浜村住民が共同して横浜新田を拓きます。この新田は水利用の関係で四方位に合致する形の区画割がなされていました。後に、このエリアまで外国人留地が拡大された際、低湿地での居住を避けた欧米人に対し数多くの中国人が移住したことで、南京町(中華街)が形成されました。

○敗戦の年にハマッ子3代目として

生まれた私の家では、私が物心つく頃まで、シナ饅頭(中華饅頭)は表皮を剥いてから食べていました。横浜大空襲で焼出されるまで南京町の近くで事業を営んでいた両親にとって、砂埃の舞う路上で売られていた饅頭は「不衛生」な食べ物

だったという事なので



こだま俳壇(九月句会)

さざ波に光の泳ぐ月夜かな

瀧澤 正行

石段の月影踏みて光堂

友井 眞言

岬より赤き満月のぼりけり

大塚 敏高

そばの花今日満開と便りあり

松尾佐知子

旧友の施設入り知る猛暑の日

島田多嘉子

計のメール網戸の蟬の鳴き止まず

田中 一男

名月や米寿と喜寿で愛でる宵

小室 豊子

満月の屋根の梟王者の如し

常世田芳子

小海線車窓の秋はアンダンテ

角田 英昭

名月やけふは私の誕生日

中野みどり

夏痩せを解消せんと秋刀魚焼き

後藤 貞夫

新橋で豆腐サラダと生ビール

高橋 和江

散髪後ほほえむ老女のケアの秋

中村 桂子

風に揺れるマリーゴールド波の丘

白井保次郎

山茶花やわが青春の閉校式

並木まり子

手作りの団子供えて月は出ず

柳瀬 節子

赤岳のどすんと坐る星月夜

講師 太田士男先生

全国自治体退職者会連絡会 第28回定期総会 幅広い視点の 組織拡大を！

瀧本哲彦



全国自治体退職者会連絡
会会長に選出された植木
眞理子さん(左端)

8月23日、自治労連の定期大会に併せて全国自治体退職者会連絡会第28回定期総会が北九州市立大学北方キャンパス1号館にて開催されました。私は各都道府県全てに退職者会が存在するものと思っていました。しかし、意外にも首都圏や近畿圏など大都市を抱える地域が中心で、地方にはあまり存在しない現実を知ることとなりました。

神奈川県の場合、自治体の職員ばかりでなく、私がそうですが、公務公共一般として関連団体の人間の参加も認められているので、単組ではとても不可能な退職後の様々な活動(私にとってはレクリエーションが中心ですが)が出来ていると思っています。それだけに各自自治体で、より幅広い視点で組織拡大を目指して今後に繋げていってもらえれば、と思いました。

実際議事の中でも、組織再建や新規会員の確保についての意見が各組織から出ていました。議事はいたってスムーズに進み、議論をするというより、各々の現況報告と意見交換の場といった和やかな雰囲気でした。

どんな障がいがあっても 安心して豊かに暮らせる地域を目指して

安西 弘



7月20日ウイリング横浜で「これからの県立施設を考える会」第7回のつどいが開催され、会場80名、オンライン38名の計118名が参加しました。

* * *

テーマは「『千葉県長生村で起きた神奈川県立障害者支援施設の方向性ビジョンの問題点と課題』です。

長生村事件とは、小田原市在住の重度の知的障がいの子を持つ父親が、介護の限界からこれまで利用していた中井やまゆり園等に入所・援助を求めたが断られ、千葉県長生村に転居後すぐに、将来を悲観して殺めてしまった事件です。

はじめに主催者側から「基調報告」を行い、続いて佛教大学社会福祉学部教授の田中智子

氏による講演「長生村事件を繰り返させないために社会にできること」があり、その後に16の団体等によるリレートーク、若干の質疑応答、最後に主催者からの「今後の活動予定」が提起されました。

* * *

長生村事件は、県立中井やまゆり園が県の新規入所停止方針の下で、SOSの入所申し込みを受け付けなかったことが主たる原因であり、神奈川県公的責任意識の希薄さと、神奈川県セーフティネットが崩壊状態となっている実態がリレートークも含めて浮き彫りになりました。

また、県立施設の定員縮小や新規入所停止は、障がいを持つ人が地域で暮らしていくのに非常に困る事態であり、早急に中止してほしいという声に参加者

の多くから出されました。

県立施設はセーフティネットの一面を担う役割があり、無くすべきではない、利用を断ってはならない、定員縮小を伴う独立法人化はせずに直営を維持すべきだという方向が確認されました。



クロスワードパズルで頭の体操

◇応募要領◇

- ①ヒント：2重枠に入った文字をAからEの順に並べてできることは？
 ②回答送付先：〒231-8588 横浜市中区日本大通1 県庁舎地下1階神奈川県職労連退職者こだま会パズル係
 ③郵便書簡に答、住所、郵便番号、氏名を記入し、12月20日までに上記②へお送りください。メールも可。
 ④賞品：正解者から抽選で3人の方にクオカード進呈します。
 ⑤発表：次号(2月15日号)

前回の答「ヒバクシャ」

ヒ	ロ	シ	マ	ヤ	キ
シ		ヨ	チ		オ
ヨ	ホ	ウ		ア	ク
	シ		カ	イ	
キ	ゾ	ク		ノ	ト
グ	ラ	バ	ー	テ	イ

●当選おめでとう●

抽選で3人の方にクオカードを進呈します。カードの発送を持って発表にかえさせていただきます。

答

	A	B	C	D	E
1	2	3	4		
5					6
		7		8	
9	10			11	
		12			
			13		
14			15		

係から：回答はがきの余白に、本紙についての感想や要望、身近な話題などひとことを。「会員の広場」欄などに掲載させていただく場合があります。匿名の場合は「匿名希望」とご記入ください。

- たてのカギ
 暮れに浅草で「市」が開催
 ハンマー
 「堅物」のこと
 栄えたり、傾いたり。最近ではあまり使われない
 甲羅を持つ哺乳類
 紅白歌合戦の〇〇を務める
 弦楽器。バイオリンより一回り大きい
 墨を吐く軟体動物
- よこのカギ
 1年で最初の俳句の会
 いつもと違う豪華な食事
 地殻と地球の核の間の岩質の層
 1967年のNHK朝ドラ。
 国鉄職員が主人公
 ペルーの首都
 〇〇〇返上
 イブセン作「人形の家」の登場人物
 〇〇〇鉛

回答はEメールでもOK kaiho@kodamakai.sakura.ne.jp こだま会報パズル係
 FAXでもOK 045 (212) 3178 こだま会報パズル係

予告!! 予告!! 予告!!

●19日国会行動(毎月)

と き：12月19日(金) 18時30分～

1月19日(月) 18時30分～

2月19日(木) 18時30分～

集 合：17時30分 JR新橋駅S L 広場

●輝け! 高齢期かながわのつどいin藤沢

と き：2月6日(金) 10時00分～

ところ：藤沢市民会館小ホール

●俳句サークル「こだま句会」

月例会句会：毎月第2木曜日13時～16時

ところ：県庁本庁舎地下1階県労連会議室

指 導：太田土男先生(俳人協会)

会 費：800円(投句のみ500円)

申込先：こだま会事務局へ

☎ (045) 212-3179

※毎号内容の充実した会報だと思います。編集委員の皆様には感謝です。今回の回答は被爆者。理不尽に命を奪われ、心と体に深い傷を負った多

※いつも頭の体操が出来るのと、家事を手伝うことで生きています。又皆様の貴重なご意見にて勉強が出来ます。ありがとうございます。

藤原慎一(相模原)

※いつも頭の体操で楽しんでいます。今回は写真の自分の顔にビックリです。フォークスもうまいねえ。これからもよろしく。

吉田綾子(逗子)

会員の広場



※緑内障が進み視力を失いました。でも好きなお酒はやめられません。一杯やりながら明るいあしたを語りませんか?

中平正和(横浜)

※年には勝てないもので、杖が頼りの毎日です。行事に参加したいの思いはありますが、ご迷惑をおかけしない範囲で参加したいと思います。

小林平治(藤沢)

くの方達に思いを馳せるとき、命以上に大切なものは無いと、つくづく思います。全世界の恒久平和を祈らずにはいられません。

石田啓子(横浜)

人間ドッグで健康で長生きしよう



こだま会は高齢者が豊かで生きがいのある生活を送れるように、健康対策にも力を入れています。日頃から病院通いをしている人はともかく、医者とは縁のない人も、年1回ぐらいは自分の体のメンテナンスをしてみたいかがでしょうか。隠れた病気があれば早期に発見することができます。

格安な団体料金で検診が受けられるように、県下4つの医療機関に人間ドッグの協力を依頼しています。どうぞこの機会を利用して、疾病の予防や健康の増進に努めてください。

料金や検診内容については、同封のチラシをご参照ください。



神奈川県職員及び県立病院等県関連職員九条の会

2025年総会&平和の集いを開催

何がおきているのか!? 改憲勢力の議席増!!

星 妙子



中西新太郎氏

神奈川県職員九条の会(略称)は、10月4日開港記念会館において、総会と平和の集いを開催しました。27名の参加でした。

総会

加瀬代表幹事は、「県職員九条の会は2005年12月に発足し20年を迎える。憲法をめぐる情勢は増々厳しくなっている。参議院選挙結果で

改憲勢力である参政党などが議席を伸ばした。今何がおきているのか第二部の講演で情報を得て学ぶ機会としたい。」と話しました。

一年間の経過と会計報告、今後のとりくみ方針の提案は拍手で承認されました。地域のとりくみでは、「九条の会・ちがさき」の宮澤恭子さんから、毎年やっていた音楽と講演のつどいについて、茅ヶ崎市の後援不承認に対する訴訟の経緯と現時点の状況について発言がありました。

平和の集い・講演

第二部、横浜市大名誉教授の中西

新太郎氏による「新自由主義時代の行き詰まりと若者の政治」について講演いただきました。

「新自由主義時代に生まれ育った若者は、格差と貧困が当たり前の社会(格差の正当化と貧困化の重し)で将来への展望が持ちにくい。政治への参加も限られる。

若者の政治とは、当事者として、切実に、他人事でなく、関心の持てる課題について声を上げ、社会に影響を与えられる行動である。若者はSNSや推し活を通じて社会に声を届けようとしている。バラバラにされた労働者や声を上げられない人たちと、ケア的な関わりで民主主義を作り直していくことが今求められている。」と締めくくりました。



お悔み申し上げます

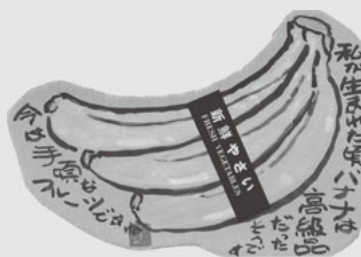
8月15日以降、事務局にご連絡をいただいた亡くなられた会員の方々です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

矢作 豊 様(1931年生れ)
鶴田 賀陽子様(1930年生れ)
平本 喜久夫様(1934年生れ)
佐藤 真一 様(1938年生れ)
花崎 孝男 様(1930年生れ)
大川 照雄 様(1927年生れ)

絵手紙



渡辺恵理子さんの作品



高橋和江さんの作品